4月30日　神の栄光の舞台　聖書研究

テキスト　創世記 1章31節～2章3節

1. はじめに

神は六日間で天地万物を創造なさった後、七日目に創造の仕事を離れ、安息され、この日を祝福し、聖別なさいました（創世記2:3)。けれども、この七日目の安息は、神の創造の御業と決して無関係な出来事ではありません。創世記2章2節で、「第七の日に、神はご自分の仕事を完成され」とあるように、神の創造の御業が完成されたのは第七の日：安息日です。つまり、神の善き創造としての被造世界全体の完成は七日目の安息において実現したのです。

2. 神の安息に向けて創造された世界

七日目の安息において創造の御業が完成されたということは、別の言い方をするならば、この世界は七日目の安息を目指して創造されたということです。神が深い愛を注ぎながら、六日間にわたって順序よく天地万物を創造なさったのは、この世界が七日目の安息にあずかるためであったということです。ここに被造世界の存在の目的があります。

それならば、この被造世界が七日目の安息にあずかるとはどういう意味なのか。創世記2章3節から分かるように、七日目の安息は単に神が休まれたということだけを意味しているのではありません。神が休まれたのは、この日を祝福し、聖別するためであったのです。聖別とは「神のものとして特別に取り分ける」ということです。つまり、神が七日目に安息なさったのは、この世界全体の創造を喜び、祝福するため、また、この世界全体が神のものであることを記念するためであったということです。したがって、この被造世界が七日目の安息にあずかるということは、この世界全体もそのような神の祝福と喜びの中に入れられるということです。この世界は神の祝福の中で、神のものとされ、神の喜びが満ち溢れる世界となるよう創造されたのです。

3. 神の栄光と祝福を現わす世界

神の創造なさった世界は、「見よ、それは極めて良かった」（創世記1:31）と言われるような良い世界であり、神の栄光と祝福に満ちた世界です。ですから、神によって創造された人間が神の栄光のために生きるべき場所はこの被造世界全体です。私たちはこの世界から離れて神のために生きることはできません。人間はこの世界の中で神の喜びを自分の喜びとして生きることが大切です。

もちろん、この世界の堕落という現実を、私たちは決して軽視するものではありません。また、神の国の祝福が最も豊かに満ち溢れている場所がキリストの体である教会であるのも事実です（エフェソ1:23)。だからこそ主の民は教会の礼拝を通して神の栄光に仕えるのです。

けれども、神の救いの目的は究極的には教会ではありません。この被造世界全体の回復と完成こそ神の救いの究極の目的です。イエス・キリストは「わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえ」（ヨハネ一2:2）として十字架にかかってくださったのです。だからこそ、主の民である教会は人間の罪の故に、「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている」（ローマ8:22）現実をしっかりと見て、被造世界全体の回復と完成という神の御業に仕えていかなければなりません。教会は人間の魂の救いだけでなく、被造世界全体の回復に対しても大きな責任があるのです。

この世界が七日目の安息に向かって創造されたということは、今のこの世界もまた終末の完成という究極的な安息に向かって導かれていることを意味します。神はこの世界全体が神の祝福と喜びに満ち溢れる世界として回復し、完成されるために働いておられるのです。その中で、主の民である私たちは既に毎週の主の日の礼拝において、その完成の前味にあずかることが許されています。

既に終末的完成の恵みにあずかっている主の民の使命は、この世界全体の終末的完成という神の御業に仕えるために、神の祝福と栄光の舞台である世界の中で生きることです。　（弓矢健児）

4月30日　神の栄光の舞台　説教展開例

テキスト　創世記 1章31節～2章3節
カテキズム　子どもカテキズム 問1，11，12

〔単元のねらい〕

契約の子たちは、神の民、幼きキリスト者として歩んでいます。それゆえ彼らもまた、さまざまなプレッシャーを受けながら生きているはずです。私どもは、この日本で信仰の厳しい戦いを生きています。ついつい、生活のさまざまな局面において「あれもダメ、これもダメ」と否定的、消極的なものの言い方、見方に陥りやすいと思います。それが、契約の子たちの信仰への消極的態度を促すことをおそれます。反対に、万一、そのようなプレッシャーを避けさせようとするなら、契約の恵みを軽んじ、空しさの中へと進んで行くこととなるでしょう。創世記の創造物語は、徹底的に世界を肯定的に見る視点を確立させる源泉です。世界は、神の栄光の舞台です。人間こそ、このひのき舞台の上で、神の御前で思いっきり生きることができるし、そうすべき最高の生なのです。肯定的、積極的、明るいキリスト教有論的人生観を子どもたちに！

「世界は神さまの栄光を物語る」

一週間は七日間あります。一週間は日曜日から始まります。明日は二日目の月曜日、そして、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日と続きます。最後の第七日目は土曜日です。

神さまは、天と地、地球と宇宙を造られたとき、このように順序正しく、きちんと丁寧に造って行かれました。そして、第六の日に、お造りになられたすべてのものを、じっとご覧になられて、仰いました。「良し・すばらしい・見事・美しい」。聖書の著者も、心の底から感動して言います。「見よ、見てごらんなさい。極めて、良かった」。

でも、この創世記を書いた人は、神さまが天地を創造された様子を見たことは、ありませんよね。人間はそれを見ることはできなかったのです。まだ、造られていなかったのですから。それなら、この創世記を書いた人は、どうしてそんな風に言えたのでしょう？　昔からこれを書いたのは、モーセさんだと言われてきました。モーセさんはどんな人かというと、イスラエルの人々をエジプトの奴隷から脱出させた偉大なヒーローでした。神さまは、エジプトの王子として育てられていたモーセを通して、イスラエルの民を救いだします。エジプトの王と戦ったモーセは、ついにイスラエルの人々を引き連れて、約束の地を目指して脱出します。ところが、エジプトの軍隊が追いかけてきました。目の前は行きどまり、海です。ところが、神さまに祈ったモーセが、その海に向かって手を差し伸べると、どうでしょうか。ものすごい風がビュービューと吹いて、海が真っ二つに分かれてしまいました。イスラエルの人々は、海の底を通って進むことができたのです。

すごい奇跡ですね。それをなさったのは、聖書の神さま、僕たち私たちの神さまです。モーセさんは、この神さまのすごい力と愛をその目で見ました。だから、こんなすごい創世記を、神さまに教えられたとおり書けたのかもしれません。

僕たち私たちは、聖書によって、この創造のお話を読んでいます。それを、信じています。どうして、信じられるかというと、イエスさまを知っているからでしょう。イエスさまが、神さまなのに、天から降りて、人間となってくださった。そして十字架について死んでくださった。そして、死の力を打ち破ってよみがえってくださった。今も生きて、世界中の教会とイエスさまを信じるキリスト者たち、僕たち私たちを守っていてくださり、世界中の国々と人々を守っていてくださるこ

とを知っているからでしょう。本当にイエスさま、神さまの御わざは、すごいですね。

神さまは、第七日に休まれました。それは、何にもしないということではありません。神さまが創造された世界を神さまが、喜び、楽しんでおられるのです。そうすると、これまでのお働きの中で、一番すばらしい日はいつになるのでしょうか。先生はこう考えます。すべては第七の日のために、それを目指して、神さまは働かれました。どの一日一日のお働きも楽しく、うれしく、すばらしかったと思います。でも、その目標はその完成だと思います。神さまが創造された最高傑作は人間でした。僕たち私たちです。つまり、世界は、僕たち私たちがそこで楽しく、喜んで生きることができるようにつくられた楽園だったのです。神さまの栄光を燦然と輝かす、見事な、あまりにもすばらしく、美しく、過ごしやすく、働きやすい、言葉では決して言い表せないほどの、すばらしい世界だったのです。神さまの造られた栄光の舞台。栄光の劇場です。僕たち私たちで言うと、栄光の遊び場、砂場？　かもしれません。

ということは、そこで、僕たち私たち人間が、思いっきりそれを楽しんで、生き生きと生きることが、神さまに喜ばれることになるはずですね。そんな世界を、神さまもまた、おもいっきり祝福されました。特別の日として、取り分けられたのです。聖別されたということです。

今朝の暗唱聖句をもう一度、読みましょう。「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。(昼は昼に語り伝え／夜は夜に知識を送る)」。今、僕たち私たちは、聖書を持っているでしょう。聖書には、神さまのことが直接書いてありますね。詩人は、「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す」と言って、神さまが造られた世界のことを「第二の聖書」って呼びました。神さまがいらっしゃって、どんなに美しく、すごい力を持っておられるのか、それは、海と空を見れば、分かるからです。

今は、どんな時代ですか。2010年4月25日。その通り、でも、もっと大きく数えると神さまの造られた時間のなかで、第七日目です。僕たち私たちは、この世界、この時間の中で、神さまに祝福されているのです。あらためて、子どもカテキズムの問1を思い出してください。「人生の目的とはなんですか。神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光を現すためです。これがわたしたちの喜びです！」。つまり、この神さまがつくられたすばらしい世界、わたしのこの命、人生を喜ぶこと、それが、神さまを喜ぶことに、つながっているのです。神さまが、僕たち私たちが喜んで生きることを喜ばれているのです。だったら、神さまの栄光を現すことも、神さまを喜ぶことと、つながっていることがわかりますね。この人生の中で、思いっきり生きること、栄光の舞台の上で、我を忘れて、楽しむこと、遊ぶことです。20世紀の一番有名な神学者の先生は、「人生は遊び」って言ったそうです。先生も、昔、子どもが砂場で夢中になって遊んでいる姿を見て、うれしかったことを覚えています。神さまは、僕たち私たちが、そんな風に、神さまの栄光の舞台で生きることを、大喜びで見ていてくださいます。だからと言って、勉強しないでいいのかというとそうではありません。勉強もまた、遊びの一部だということですね。そんな神さまを知ることができた僕たち私たちは、幸せです。今日は安息日ですね。最高の遊びは礼拝ですね。　　(相馬伸郎)

〔今週の暗唱聖句〕　　詩編 19編2節

天は神の栄光を物語り
大空は御手の業を示す。

4月30日　神の栄光の舞台　幼稚科

ねらい：神様が造られた素晴らしい世界を知る。
視覚教材：植物や動物の写真や絵、

【お話】

神様はなにもない所からすばらしい世界を造りました。まず何を造ったかな？（子どもたちに質問しながら復習する)、水や土があるから、花や木が大きくなります。そして草を食べて、牛や馬などの沢山の動物が生きていけます。どんなに小さな虫も、草も花も神様が全てをお世話しています。神様は6日間の間に造られた全てのものをみて、みんなすばらしい!!　と言われました。ほんとうにすばらしくて、神様はすべてのものを心から大切にしました。

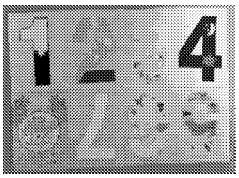
その次の日神様は何をしたでしょうか？　6日間いろいろなものを造るために働かれた神様は7日目に祝福して休まれました。　そしてその日を特別に神様を礼拝する日として決められました。

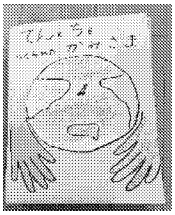
このすばらしい世界を造ってくださった神様は今も、私たちのためにいろいろな仕事をしてくださっています。そのことをいつも忘れず、神様ありがとうとお礼をいいましょう。

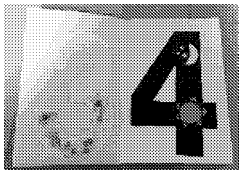
【工作】

7日目の7は空白のまま使用。大きな模造紙（A3サイズ位）に1から7の数字を貼る。

表紙に好きな絵を貼って折りたたむと絵本として使用できます。







4月30日　神の栄光の舞台　小学科下級

創世記1:26〜31をよみましょう。

1. かみさまはさいごになにをつくりましたか？

2. 人は、なにににせてつくられましたか？

3. かみさまが人にあたえられたしゅくふくとやくめはなんですか？

4. かみさまが人にあたえたたべものはなんですか？　わたしたちのたべものとおなじもの、ちがうものがありますか？

5. 人（あなた）のどこが、かみさまににているとおもいますか？

4月30日　神の栄光の舞台　中学科

創世記1:26〜31を読みましょう。

1. 神様が最後に創造されたものは何ですか？

2. 神様は人を何にかたどって創造されましたか？

3. 神様が人にどのような祝福と役割を与えられましたか？

4. 神様が人に与えた食べ物は何ですか？　今の私たちの食べ物との違いは？

5. 人（あなた）が神様に似ているところは、どんなところですか？